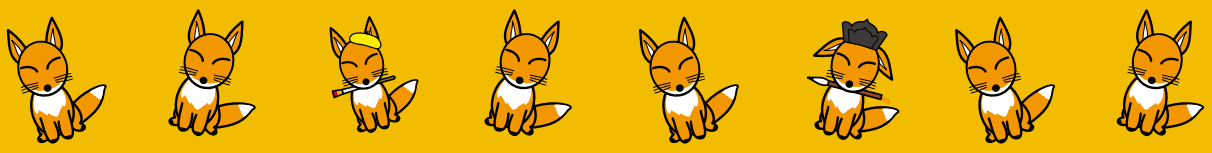
八尾市指定文化財 安中新田会所跡 旧植田家住宅 ニューズレター

旧植田家だより

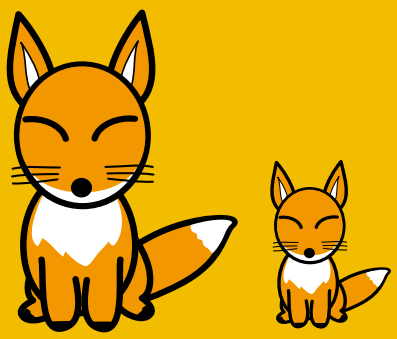
KYU-UEDAKE INFORMATION

NEWS LETTER
発行部数 3,000 部
Vol.41
2019年7月発行



企画展

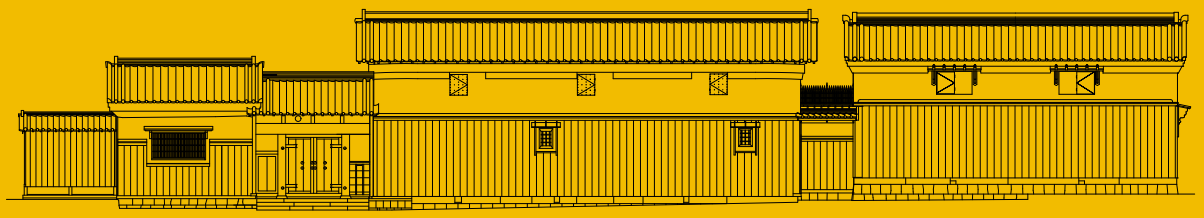
開館10周年記念展示～前期～



開館10周年記念・旧家でコンサート

帰ってきた エド・バッハ

開館10周年



連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十五)」

http://kyu-uedakejutaku.jp/

展示のご案内

企画展「開館10周年記念展示」

後期 2019年 7月4日(木)−9月1日(日)

開館10周年を記念し、有名な人物の書画類を中心に展示しています。

[書(藤澤南岳・西郷隆盛・勝海舟ほか)、浮世絵、大坂画壇、陶磁器、茶道具 他]

※休館日は P15 をご覧ください

NEWS LETTER
旧植田家だより
KYU-UEDAKE INFORMATION
Volume 41

Contents

4 企画展
開館 10 周年記念展示〜前期〜

6 開館10 周年記念講演会
“ 植田家” から” 旧植田家住宅” へ

7 開館10 周年＆八尾駅開業130 周年
市内鉄道まちあるき〜八尾・志紀駅間をぶらり〜

8 開館 10 周年記念・旧家でコンサート
帰ってきたエド・バッハ

10 旧家で記念撮影〜令和＆こどもの日〜

11 四会所だより（21）-加賀屋新田会所-

12 なにわの伝統野菜栽培日記 ㊶

13 植ちょピ（冷やし旧家、夏・秋イベント告知）

14 コラム「落穂拾い -今東光の薫風-（三十五）」

15 旧植田家住宅のご案内

落穂拾い（P14）万葉歌碑写真　撮影：伊東健

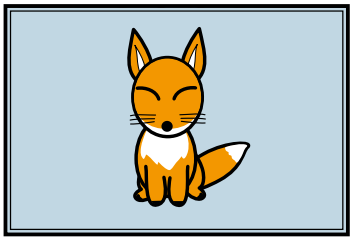
ギャラリーにてバックナンバー配架中（9月まで）

※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。
http://kyu-uedakejutaku.jp

表紙写真

きゅうちゃん（旧植田家住宅マスコットキャラ）

旧植田家住宅を見守るお稲荷さんの狐をモチーフにしたキャラクター（キタキツネ似）。名前は植田家に遊びに来る子どもたちに付けてもらった。子どもの安全を守る「Kyuca」（だより４号参照）のマスコットを務める。



10年分の企画展!?

《貼り交ぜ屏風（六曲一双）》

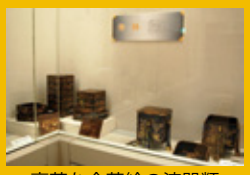
企画展

開館10周年記念展示

前期 5月17日（金）～7月1日（月）

「優品」を展示。

金屋五郎三郎作の金属器



豪華な金蒔絵の漆器類

市指定「安中新田検地帳」

伊万里焼の大皿など

企画展 開館10周年記念展示

平成21年（2009）年5月6日の開館からちょうど10周年を迎えた安中新田会所跡旧植田家住宅では、これを記念し、5月17日（金）から9月1日（日）までの約4カ月に渡って「開館10周年記念展示」を行なっている。過去10年分の企画展を振り返る節目の周年展示としてもこれまでに展示した収蔵品の中から選りすぐりのものを一堂に公開する。

・前期展（展示室）

本企画展の「前期（5/17～7/1）」では、六曲一双の屏風に江戸～明治期の書画類一四七点が豪快に貼られた《貼り交ぜ屏風》をはじめ、豪華な金蒔絵の五段重箱及び行器（ほかい）など漆器類、植田家が代々愛用した金工家・金屋五郎三郎作の金属器類、座敷を華やかに飾った伊万里焼の大皿など陶磁器類のほか、平成26年度に市指定文化財となった「安中新田検地帳」など、いずれも植田家のお宝といえる「優品」ばかりを展示した。また、実際の質感や大きさなどが間近で感じられる試みとして、全長約9メートルの河内木綿で作られた「節句幟（絵幟）」を、ガラスケースの中ではなく、展示室の天井ぎりぎり

河内木綿

全長９メートルの《節句幟》（展示は折り返して半分を展示）

特別展示「往時の植田家」

佐久間象山 電気治療器

ハイトリック（蝿捕り器）

「珍品」も色々。

過去 10 年間の企画展のポスターを特別展示

消火弾

の位置から吊るして展示するなど、特別な要素も所々に交えている。

そのほか、江戸時代の佐久間象山が考案した「電気治療器」や大正時代の「ゼンマイ式ハエ捕り器（ハイトリック）」、昭和時代の「アンプール式 消火弾」など、植田家ではおなじみの「珍品」も展示し、見応え十分の前期展となった。

・主屋（常設）特別展示「往時の植田家」

今回の企画展では、展示室を飛び出し、普段常設となっている主屋でも特別に展示を行なっている。「往時の植田家」をテーマに、残された写真と聞き取りをもとに、実際に生活をされていた30年前の設えに近付け、解説と写真パネルとともに、有名な書画家や政治家などの貴重な扁額７点と、その他収蔵資料の一部を当時のまま各部屋に配している。展示期間は、企画展の終了日までの予定となっているが、保存または安全上の都合により早期終了となる場合もある。この機会にぜひ特別な展示をご覧いただきたい。

なお、後期展は7月4日（木）から9月1日（日）まで開催。有名な人物の書画類等を中心に展示している。また、展示と関連した開館10周年記念「オリジナル手ぬぐい」も限定販売中。

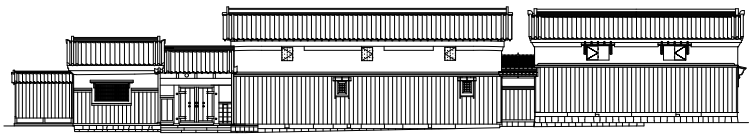
（旧植田家住宅 学芸員　安藤亮）

かつての住まいで講演する植田光彦氏（上）
指定管理者 NPO 法人理事長の挨拶（下）

開館10周年記念講演会

“植田家”から “旧植田家住宅”へ

2019年5月25日（土）　於：旧植田家住宅・座敷



約30年前の平成元年頃まで実際に住居として使用されていた「旧植田家住宅」が八尾市に寄贈され、一般公開されてから10周年を迎えた。元住人を講師に招いての講演会の開催は当初より切望していたが、この日、開館10周年記念として念願がかなった。

今回講師を務めていただいたのは、植田家の三男で元住人の植田光彦氏。写真家で地域の歴史資料の調査等もされている植田氏に、かつての「植田家」と「旧植田家住宅」になるまでの経緯や想いを語っていただいた。

まずはじめに「我が家を公開しよう」と決められたのは、「植田家」という代々継承される特殊な環境で生まれ育った中で感じ背負ってこられたコンプレックス（世間の目）や重圧に対する使命と反発からであることを語られた。他人には想像できない内なる想いを抱え、孤独で地道に行動を続けてこられたという。その1人であることに限界が来た時、あることをきっかけに、想いを共にする様々な仲間との出会いにより「我が家を玩具にしよう」という次の構想に進んだ。

「どうするのか」を決める事が肝心だと語る植田氏

生涯をかけて、早くから行動し、時には立ち止まって考えながら歩んでこられた植田氏。筆舌に尽くし難い想いが、今日の「旧植田家住宅」に結実したとも言えるが、八尾市が継承したこの文化財をこれから「どのようにするのか」を決めることが、今の私たちに与えられた役割だということを改めて感じさせられた。

（学芸員）

元住人によるこの日限りの特別なギャラリートーク

開館10周年＆八尾駅開業130周年

市内鉄道まちあるき

2019年
6月8日（土）

～八尾・志紀駅間をぶらり～

旧堤跡の一部とみられる稲生神社

長瀬川（旧大和川）と
線路に沿って東へ

踏切発見！（天王寺屋第一踏切）

遠方に見える八尾変電所

古いレンガ積みの柱脚

改修後の式内弓削神社（東弓削）建物

志紀駅前の万葉歌碑

まちあるき成分（要素）

旧大和川	建築	鉄道
3	2	1

6・8 市内鉄道まちあるき ～八尾・志紀駅間をぶらり～

旧植田家住宅の最寄り駅「JR八尾駅」は、今年２０１９年５月で開業１３０周年を迎えました。そして旧植田家住宅は開館10周年ということで、その両方を記念し、安中新田の範囲でもある八尾駅から志紀駅までの「市内鉄道まちあるき」を行ないました。

タイトルにある「鉄道」の要素を入れての今回のまちあるきでは、いつもの「ぶらりまちあるき」でおなじみのまっぷ師・北村茂章さんのオリジナルマップを持って、旧大和川の新田と堤跡をたどり、寺社や公共建築などの様々な特徴のある建物にも注目しました。終始線路を意識しながら、途中４ヵ所以上ある踏み切りを渡り、今と昔の風景の移り変わりを感じることができました。

ちなみに今回ガイドを務める予定だった北村さんですが、数日前に初めてぎっくり腰になり、当日は急きょ植田家スタッフとメンバーがドタバタな緊張感あるガイドを繰り広げました。次回は北村さんよろしくお願いします。

（NPO法人HICALI メンバー）

Edo-Bach
安中新田会所跡 旧植田家住宅

開館10周年記念

旧家でコンサート

旧家で響きあう
チェロとチェンバロの
ささやかな饗宴

エド・バッハ
かえってきた

2019年6月15日（土）
開演18:30/開場18:00

◎出演（八尾市在住音楽家）
安藤 信行（チェロ）
安藤 晴子（チェンバロ）

江戸時代の中ごろ、宝永元年（一七〇四）、大坂では世紀の大事業といわれる大和川の付け替え工事が行われ、その後多くの新田が開発された。

一方そのころ、西洋では偉大な音楽家バッハらが活躍していた。

この江戸とバッハの時代の音楽を歴史ある安中新田会所の建物で奏でるコンサートが、

「エド・バッハ」

である。

開館10周年記念・旧家でコンサート
～帰ってきたエド・バッハ～

安中新田会所跡旧植田家住宅の開館から10周年（11年目）となった今年、7年の時を経て〝あの〟エド・バッハが帰ってきた。旧植田家住宅ではこれまで「旧家でコンサート」として、八尾に縁のある音楽家によるクラシック音楽やジャズのコンサートを毎年開催してきたが、元大阪フィルハーモニー交響楽団チェリストの安藤信行さんと奥さんの晴子さんによるチェロとチェンバロのコンサートは7年ぶりで4回目となる。例年10～11月ごろに開催する「旧家でコンサート」だが、今回は10周年記念として、第1回目と同じ「エド・バッハ」を同じ時期に開催した。

約一時間のコンサートでは、まず始めにバッハの《無伴奏チェロ組曲 第1番ト長調》より〝前奏曲〟を演奏。緊張と期待に包まれた会場にチェロの優しい音色が響いた。いつもの土間とは違う板の間の舞台上では、木のより好い響きが与えられ、楽器のもつ力が存分に発揮される。続いてバロック時代と呼ばれる17世紀から18世紀を代表する作曲家ヘンデルの《ブロック・フレーテと通奏低音のためのソナタ 変ロ長調》は3楽章形式になっており、本来ブロック・フレーテ（リコーダー）で演奏する曲をチェロとチェンバロが奏でた。

〝あんぱぱ〟こと安藤信行さんの軽快なおしゃべりも健在で、各曲や楽器の解説にはユーモアを交え、しばしば会場を盛り上げる。一方、解説に登場した晴子さんの《愉快な鍛冶屋》（ヘンデル）の独奏は、観客の関心を惹き付けた。

今回のコンサートではバッハの《無伴奏チェロ組曲》第1番～第3番の各〝前奏曲〟が「栞（しおり）」としてプログラムに組込まれ、第2番の演奏と続くマラン・マレの曲では、今日のためにカスタマイズしたという特製のバロック・チェロを使用。より一層趣の深いその音色からは、歴史の音がさらに感じられた。

第3番を演奏し、最後にマルチェッロの《チェロと通奏低音のためのソナタ ハ長調》を弾き終えると、会場からは大きな拍手が沸き起こった。その声に応えるように用意していたアンコールでは、安藤信行さんが幼少期に初めて人前で演奏したという「メヌエット」（ベートーヴェン）にちなみ、バッハの「ト長調のメヌエット」をハ長調で演奏するという趣向によって、最後の最後まで会場は穏やかで和やかな空気に満たされた。

息の合った演奏を披露

晴子さんのチェンバロ独奏

弓について解説する安藤さん

座敷に設けられた客席

いつもの五月人形は座敷１に

紙製甲冑を着て、
記念撮影！

今年初の五月飾りと令和（座敷2）

旧家で記念撮影 令和＆こどもの日

2019.4.27 ～ 5.12

「令和」を持って、
記念撮影！

旧家で記念撮影「令和＆こどもの日」

今年度、最初のイベントは、4月27日（土）～5月12日（日）の「旧家で記念撮影～こどもの日～」でした。今年は平成から新しい年号に変わる年でもあり、実施期間中の5月から時代は「令和」になりました。

そのような二つの記念に加えて、5月6日は旧植田家住宅の開館10周年の日であったり、世間では10日間の大型連休の真っ最中など、何かと記念することの多い「旧家で記念撮影」でしたが、例年にはない新たな試みもありました。それは、昨年地域の旧家からいただいたもうひとつの五月人形（甲冑）の登場です。

毎年、旧植田家住宅所蔵の五月飾りを展示していますが、今回からは座敷二部屋にそれぞれ五月人形を設え、いつも以上に豪華な祝いとなりました。またいただいた甲冑は小さな子どもであれば実際に着用できるもので、これまた例年の紙製甲冑と併用して、記念撮影を楽しんでもらいました。ちなみに、「こどもの日」のお祝いといいながらも、おまけで用意した「令和」の額縁のほうが人気となり、「令和＆こどもの日」の記念撮影会となってしまいました。来年は、赤ちゃん用の兜も用意し、参加をお待ちしています。

（旧植田家住宅 スタッフ）

四会所だより（21）

加賀屋

新田開発の困苦を語る「加賀屋甚兵衛物語」

大阪湾岸の新田開発は、大雨・高潮などによる洪水との闘いでした。また、大変な資金を要しました。

一枚の肖像画が残されています。加賀屋新田の初代開発人、加賀屋甚兵衛です。甚兵衛が新田開発に着手したのは四十九歳の時でした。甚兵衛は新田開発の資金繰りに大変な苦労をしましたが、そのことは「加賀屋新田文書」の「桜井家濫觴（らんしょう）」に詳しく記されています。もともと大坂・淡路町で両替商を営んでいましたが、それを畳み新田開発に専念したこと、最初に開発した北島新田を売り、その資金で加賀屋新田の開発に乗り出したこと等、それらが喜怒哀楽のエピソードを交え記録されています。

私たち「住之江のまち案内ボランティアの会」では、そうした加賀屋甚兵衛の人となりと苦闘を、紙芝居「加賀屋甚兵衛物語」に表し、様々なイベントで上演してきました。

また、嬉しいことに、甚兵衛の生まれ故郷である富田林喜志地区の方々が、一昨年来訪され、故郷の偉人の業績を偲びに来られました。そして、昨年、にわか芝居「加賀屋甚兵衛物語」に取り組まれ、教育委員会後援のもと、地元の大ホールで公演を成功させました。

初代 加賀屋甚兵衛肖像画
（提供：大阪市教育委員会）

このように加賀屋甚兵衛の足跡は、徐々に知られるようになってきています。私たちも、今では、紙芝居「加賀屋甚兵衛物語」をＶＴＲに納め、各所に配布し、上映するように努めています。

（住之江のまち案内ボランティアの会　渡邊義通）

紙芝居「加賀屋甚兵衛物語」

ビデオ「加賀屋甚兵衛物語」を見る児童

にわか芝居
「加賀屋甚兵衛物語」
ポスター

偲ぶ会の人たちを加賀屋
墓地に案内

●加賀屋緑地 / 加賀屋新田会所跡

- 大阪市住之江区南加賀屋4-8
- 地下鉄「住之江公園」駅下車、南東に徒歩15分
  市バス「南加賀屋四丁目」下車、徒歩5分
- 10時～16時30分 開園（月曜日、年末年始は休園）
- 無料　・お問い合わせ 06-6683-8151

なにわの伝統野菜 栽培日記

No.41

【とぐろ仕立て】

南瓜は行儀が悪い。そしてあつかましい。というのも、放っておいたら思うがままにグングンのびて好き放題。あっという間に足の踏み場がなくなる。

毎年、夏の時期、このおかげで畑から主屋の渡り廊下までは通行止めになってしまう。畑は小さなスペース。いつもは3株しか植えないところ、今回子どもの数の都合で強引に4株。なんばネギも横にあり超激狭なので、苦肉の作(策)『とぐろ仕立て 真夏のクリスマスツリー風』でかなりのストレスを。

読んで字の如く、鉄柱につるをグルグル巻き付けていくのだが、これがまた大変。子づるや孫づるがどんどん増えるわのびるは…。反抗するつるを折れないように誘導するのにもイヤな汗をかく。2株は深~く打ち込んだ鉄パイプ1本ずつに、残りの2株はパイプ不足で地べたに、それぞれとぐらし中。パイプのほうは見た目も暑苦しいクリスマスツリーに。

とぐらし中

真夏のクリスマスツリー

しかし中は雌花がたくさん!どんどん上に巻かれていく葉っぱに守られて雨に当たらず受粉しやすいのか赤ちゃんカボチャがコロコロと♪おまけに強引に吊り上げられているので土もつかず、皆べっぴんさん。

不作が続いた夏野菜。さてKAMA考案「とぐろ仕立て」は吉と出るか凶と出るか。

※2本のツリーは、その後、休館日中に補強用の棒を伝ってしまい、引き帰せず今ではアーチと化してしまいました(涙)

葉っぱに守られ、
赤ちゃんカボチャがコロコロ♪

地をはうカボチャのつる

【ヤツら※が来た!!】

(※だより29号ほか参照)

(ハウス育苗)2月初め 種まき→梅雨前収穫=ヤツらの惨敗)と勝ち星をあげ続けているトウモロコシ対決。なのに、なぜだか今回何度まいても芽が出ずアセリまくる。

結局4~5回まき直し、やっとのこと4月頭にこんにちは。必然的に(一般タネまき適期)4月後半 植えかえ→梅雨→ヤツら襲来→地獄絵図=KAMA撃沈)…となる。文字数の関係でちょこっと、この続きは次号ということで。

収穫した野菜

【植田家住宅の・ちょっとした・トピックス】

植ちょピ（ックス）

話題

告知

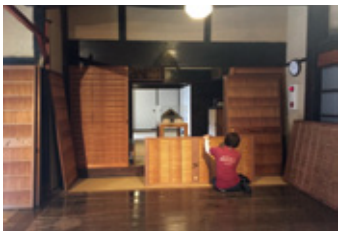
◆8・9月イベント

・「冷やし旧家、はじめました。」

＝2019年7月13日（土）～9月8日（日）

7月より絶賛開催中の納涼企画「冷やし旧家、はじめました。」は、暑い夏を昔ながらの方法で涼しく過ごそうというおなじみの企画で、今回もたらいに井戸水をはって足をつける「足水体験」や室内を見た目にも涼しくする簾戸と蚊帳の体験展示、期間限定で「昔ながらの瓶ラムネ」と「冷やし甘酒」の販売を行なっている。夏休み直前の開始早々には、ラムネを片手にさっそく足水を楽しむ子どもたちの姿が見られた。夏休みの後半も、ぜひ旧植田家住宅の「冷やし旧家」へ。

＊他のイベントとの都合により、蚊帳の体験展示を実施しない日や時間もあります。



今年も「冷やし旧家」準備中

・夏休み工作体験「土蔵でクラフト」

＝8月10日（土）・8月24日（土）

子供から大人まで「夏休みの宿題に」も使える「土蔵でクラフト」では、身近にある材料で小物や玩具を作るイベントとして毎年行なっている。今年は全2回の実施で、10日（土）は開館10周年を記念して、卵形の発泡スチロールを用いた「きゅうちゃん人形（たまご型）」と、24日（土）はおなじみ廃材パネルを使った江戸のからくり玩具「回りネズミ」を作る予定になっている。いずれも参加は8月から事前申し込みで受付中。

旧植田家住宅のマスコットキャラ「きゅうちゃん」の人形（左）とからくり玩具「回りネズミ」（右）

・夏のお茶会（協力：八尾高校茶道部）

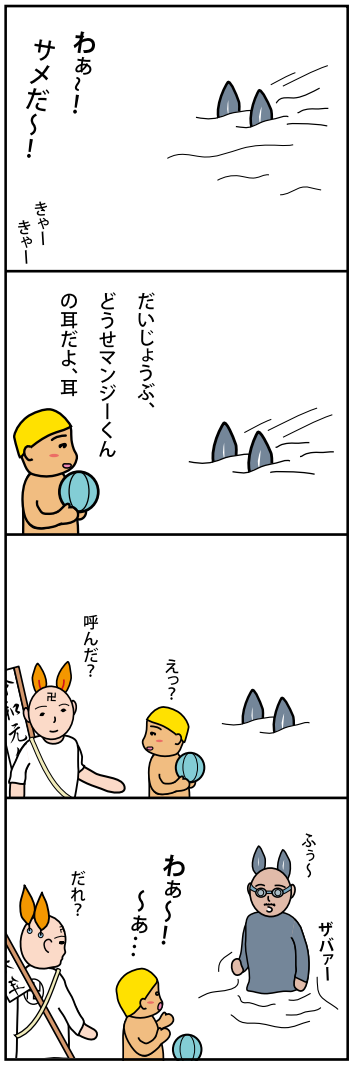
＝8月25日（日）

毎年「夏のお茶会」は、地元八尾高校茶道部の協力を得て実施。午後1時30分から3時30分まで開催。参加無料（入館料が必要）、当日会場まで。

- 9／8（日）防災！かまどでご飯炊き体験
- 9／14（土）旧家で観月会（夜間開館）
- 9／15（日）かまどで月見団子作り
- 9／23（祝）蓄音機で回想法　※無料

マンジーくん

安富土 暁



落穂拾い
－今東光の薫風－（三十五）

文・伊東 健

新元号「令和」の出典が万葉集であることを聞いて、思わず奈良県桜井市にある万葉歌碑を巡る散歩にでかけました。

桜井市にある万葉歌碑は、同市在住だった保田與重郎を通じて、川端康成が呼びかけ人となり、昭和四十六年頃より立てられたもので、武者小路実篤等の文学者のみならず、棟方志功や東山魁夷等の芸術家に犬養孝等の学者も加わり、六十二基が市内の万葉ゆかりの地に建てられています。今東光もその中で揮毫した一人でした。

「紫はほのさすものぞ　海石榴市（つばいち）の
八十のちまたに逢へる子や誰」

この歌は万葉集巻十二に収められている作者未詳の問答歌ですが、この歌の揮毫にあたり東光は、ある思いを込めたことを歌碑のお披露目直後に行われた座談会で告白しています。出席者は林房雄、保田與重郎、堀口大學、中河与一、前川佐美雄に当時の桜井市長池田栄三郎。

保田　今先生の歌碑についての話をやってもらいましょう。金屋（つばいち）の碑の歌のことを。

今　これはね、紫は、紫草だな。佐佐木信綱さんの定本にある、紫草の「紫は、灰指すものぞ海柘榴市の八十のちまたに逢へる子や誰」という歌なんだ。ところがね、僕は「灰指すものぞ」とは、読めないと思うのだ。というのは、理屈をつけると、紫の色を出すために、灰を使うというのだ、アク抜きに。だから「紫は灰指すものぞ」…。

保田　その灰がね、つばきの灰を使うというのです。

今　それだったら、こじつけみたいになる。僕は、「灰指す」を、書いているうちに、チョンチョンと、後から点を入れて、「灰」にしてしもたんだというのだ。転写しているうちに「仄」を（笑）。八十のちまたにあう子は誰だ、それは紫のようにほのぼのと美しい、という意味だ。それを灰指すなんて、そんな灰指すような女だったら、俺、惚れないよ（笑）。

堀口　これは、僕は賛成する。さすがは大僧正だ。（中略）

保田　僕ら、子供のころから、あれを何気なく「仄指す」と読んでしまっていたんです。気分的にも感覚的にも、そういう感じだった。書く時は「灰指す」と書きますが。

今　「仄指す」だろう。俺はね、仏書を転写したものを、叡山なんかで見ていると、いろいろと違うわけだ。年代も違う。転写しているうちに、「仄」という字にチョンチョンと点を入れよったんやな、次のやつが（笑）。よう歌もわからずに、「仄指す」って、こんな字かいなと思って、二つ点を入れたら、「灰」になってしもて、そうすると、これは、どうしても、海柘榴市に関係があるから、紫の色を出すために、ツバキの灰を入れた、それだったら、なんで、「八十のちまたにおうた子がなつかしい」なんて、言わんならんねん。

林　なるほど。

今　俺は恋愛のほうは専門やから（笑）。これは、「仄指す」やないと通らんというて、がんばったんだな。

中河　おもしろいな。

今　俺が違ってても、後世にあの石が、五十年か、百年残ればおもろいやないか、違うたとしても。

前川　いまの万葉の学者はどういうか。その新説は、なかなかおもしろい。（後略）

（「浪曼」所収〝座談会大和路の万葉歌碑〟
昭和四十八（一九七三）年一月号より）

東光が投げかけた問いかけは、さまざまなことを考えさせてくれます。古典解釈の奥深さや文化継承の難しさといったことから、定説の重みなど。再び脚光を浴びた万葉集を片手に、古代と現代をつなげようと歌碑に込めた東光を思いながら、桜井市まで足を延ばすのは河内人ならではの楽しみです。

写真：万葉歌碑（p3 目次に掲載）

開館10周年　【2019年8月～10月】

旧植田家住宅のご案内

今後の展示・企画

毎月第1土曜日は「河内木綿体験（5組限定）」
〃　第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催！

展　示

企画展「開館10周年記念展示」
◎7月4日（木）～9月1日（日）：後期

◎9月4日（水）～10月22日（火・祝）
通常展「大和川付替えと植田家の収蔵品」
～工芸品編（河内木綿関連資料ほか）～
※9/16（月・祝）ギャラリートーク（学芸員の立ち話）

◎10月26日（土）～12月26日（木）
企画展「植田家の意匠（デザイン）」

展示、イベント等のお知らせは
ホームページもご覧ください
http://kyu-uedakejutaku.jp/

企　画

（詳しくはお問い合せください）

8月
□10日（土）・24（土）土蔵でクラフト（夏休み工作体験）
■25日（日）夏のお茶会　協力：八尾高校茶道部
☆ ～9月8日（日）納涼企画「冷やし旧家はじめました」

9月
□ 8日（日）防災！かまどでご飯炊き体験+避難訓練
■14日（土）旧家で観月会（夜間会館）
□15日（日）かまどで月見団子作り
■23日（祝・月）蓄音機で回想法　※「関西文化の日プラス」により入館無料

10月
☆10月2日（水）～10月22日（火・祝）
再発見！【航空写真】にみる八尾（ミニ展示）
□18日（金）ぶらりまちあるき～古民家編～

☆9月13日（金）～3月15日（日）
河内の古民家めぐりスタンプラリー 開催！

休館日カレンダー

■＝休館日　■はイベント開催日

8 August

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9 September

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

10 October

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

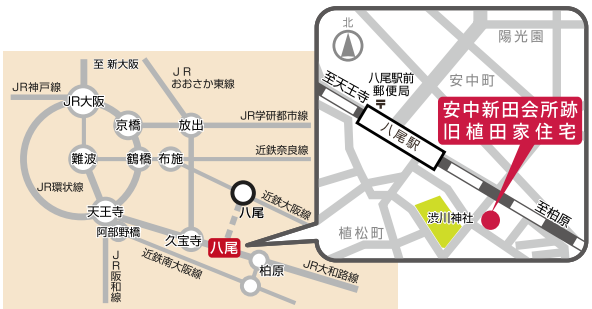
●開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

●休 館 日：火曜日・祝日の翌日・年末年始
（詳しくは休館日カレンダーをご覧ください）

●入 館 料：一般250円（団体20人以上で120円）
高校・大学生120円（団体60円）
※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者および介助者は無料

「リピーターカード」実施中！（数量限定）

●お問い合わせ・見学のご相談　※施設案内（無料）、講座室利用（有料）など。
〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25
TEL/FAX：072-992-5311
E-mail：　info@kyu-uedakejutaku.jp
※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分
◇近鉄大阪線「近鉄八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行
JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

本当の幸せって？
本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう
変化してきているのではないでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、
地域経済を活性させたいと思っています。

安中新田会所跡 旧植田家住宅だより　発行・編集／NPO 法人 HICALI（安中新田会所跡 旧植田家住宅指定管理者）
〒581-0084　大阪府八尾市植松町 1-1-25　TEL.072-992-5311
ホームページ　http://kyu-uedakejutaku.jp　メールアドレス　info@kyu-uedakejutaku.jp
●本誌掲載の記事・写真・イラスト等の無断複写、転載を禁じます。

〈本社・八尾工場〉〒581-0034　大阪府八尾市弓削町南1-18　TEL.072-948-7772　FAX.072-948-7735
〈京都支社〉TEL.075-812-3670　〈神戸支社〉TEL.078-341-8221　〈東京オフィス〉TEL.03-3436-0211
株式会社シーズクリエイト